JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD

日本歯科色彩学会

ニュースレター

NO.55

日本歯科色彩学会事務局　明海大学歯学部 保存修復学分野
〒350-0283　埼玉県坂戸市けやき台1-1
発行人／片山　直　　TEL／049-285-5511　FAX／049-279-2741
発行日／平成25年5月9日

日本歯科色彩学会
http://www.jacd-dc.jp

JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD JACD

会員のメールアドレスを学会事務局宛へお知らせ下さい

会長に就任して

明海大学　　片山　直

今年度より、会長を拝命しました。歯科色彩学会のために尽したいと存じます。どうぞよろしくお願い致します。

ずいぶん昔の話になりますが、日本歯科色彩学会は設立当初に日本歯科色彩研究会として発足し、初代会長には橋口綽徳先生、副会長には恩師の片山伊九右衛門先生が就任され、研究分科会と教育分科会のセクションで活動を始められました。教育分科会では関西ペイント平塚カラーリサーチセンターの見学と講習を行い、その流れは現在も続いております。本年２月にもe－ラーニングシステムの講演会を中澤副会長の担当で開催され、有意義な勉強会でした。

設立当時の話しに戻りますと、私は編集委員を仰せつかり、編集委員長の指宿真澄先生の指導のもと、様々な色のことをお聞きしたのを憶えております。指宿先生は日本色彩研究所とも研究をされており、編集委員会に参加して 種々色彩の基礎的なことをお教え頂きました。

先般、その編集委員会に出席した際に歯科用測色器の話が余談で出てきました。いまだ進化し続けるこの器具について、様々のアイデアや評価の話が出ておりました。互いに感じるところは同じで、いかに汎用のデータが導き出せるか。種々の測色器のメカニズムなどの話が出てきました。種々の組織の人たちが集まっての話しには広がりがあって愉しい時間を過ごしました。学会でも活発な討議が望まれます。

昨年は20周年で池見会長が取り仕切り、盛大な総会・学術大会となりました。本年度は7月27,28日に明海大学が担当致します。ご参加のほどよろしくお願い致します。

学会長を終えるにあたり

日本大学松戸歯学部　　保存修復学講座　池見　宅司

平成23年度から2年間、学会長を務めさせていただきました。大局的には大過なく職責を果たし終えたかなと考えておりますが、細かい部分では至らない所も多く、会員の皆様にはご迷惑をおかけしたかも知れません。この場をお借りして、お許しをお願い申し上げます。

さて、次期会長をお引き受け頂きます片山　直先生にはプレッシャーとなるかもしれませんが、私が感じたことを以下に記させて頂きます。なお、内容が多少愚痴めいておりますが、今後の本学会の運営に役立つようであれば幸いです。

多くの会員を擁する学会も本学会のように小人数の学会も、運営面では全く同じで、委員会や学術大会の開催に向けての手間は同じように掛かります。特に、本学会では予算の関係上、専任の事務局員を置くことができず、会員の動向や会費管理、会議場の設定、機関誌の郵送、議事録の作成等のこまごました手間がかかります。これらは私が大学に所属していることで教室員の助けを借りて、何とか出来たのですが、個人でやるとなると大変な労力が必要となります。これまでの本学会の歴代会長のご苦労がいやというほど実感できました。

まず、最初の疑問が、郵便局の口座でした。年会費等の徴収に関して、銀行口座ではだめなのかというのが疑問でしたが、すぐに理由が分かりました。銀行口座の振り込みは7文字ぐらいまでしか記載されないので、会社名や学校名も最後まで分からず、後に続く個人名は想像で分かればいい方で、分からないときには直接問い合わせなければなりません。一方、郵便局では記載可能な文字数が多く、全てを記載することが出来るために事務的には非常に楽であることが分かりました。このことに関しては、知っている人も多いと思いますが、知らない人は、振り込みが楽なのに何故銀行にしてくれないのかと不満を持たれていると思います。恥ずかしながら、私も以前は後者でした。

郵便局での口座開設に当たっては、学会の様な口座の場合には、事務局がどこであるかとか会長が誰であるか等についての証明が必要となります。私が久光前会長から引き継いだ時、機関誌の会則には昭和大学保存学講座が事務局となっており、総務報告等で会長は久光会長となっていました。そのために機関誌の会則の部分を見せても信じてもらえませんでした。これは、私が不審人物と思われたことも考えられますが、機関誌の発行が3月下旬で、新年度は4月からという時期的な問題がありました。したがって、私が新会長であるという証拠をお見せしなければならない状況となり、郵便局としての立場も理解できましたので、ニュースレターの総会議事録等を持参して3回以上郵便局に足を運んだ覚えがあります。このことが今回の会則3条の条文変更の理由です。

次に、30個を超える段ボールの山です。その中には、これまで発行した機関誌の「歯科の色彩」と会員資料の書類でした。本学会の歴史を物語るもので粗末にもできず、新しい段ボールに換えて保管しておりました。会長が変わるたびに移動してきたものですが、配送するにも経費がかかりますので何とかしたいと考えておりました。その様な

時、20周年記念大会を当講座が主催することになり、今の内であればこれまでの「歯科の色彩」をPDF化できると考え、時間はかかりましたが、記念ディスクに収めることが出来ました。今後もPDFに追加して頂ければ、雑誌の保存は数セットで済みますし、移動や保管も楽になると思います。さらに、今後の機関誌の電子ジャーナル化にも役立つものと思っております。また、スキャナーで取り込みながら通読すると、本学会の流れが見えてきただけでなく、これまでに掲載された研究論文の素晴らしさが分かってきました。そして、歯科の色彩学はまだまだ途上にあることも感じることができました。

会則に関しては、再度改定が必要と考えられる部分があります。本学会の総会と理事・評議員会は年に一度しかなく、決定まで1年待たされることになり、迅速な学会運営が困難なものもありました。そこで、見学会の所で理事・評議員会を開催することで審議・決定の迅速化を図りました。今後は、理事・評議員会での決定事項を多くすることで、会務運営が行い易くなると思われます。そして、本学会には倫理規程がありませんので、早急に整備する必要も考えられます。

今後の学会の在り方として、測色器械や測色方法の統一化を図り、会員の皆様が理解しやすい学会とすることが重要ではないかと考えられます。測色器械・方法を統一することで、誰が測色してもほとんど同じ値が得られ、その値で頭の中に色彩を思い描ける様になれば、素晴らしいと思います。また、本学会は、歯科診療環境と心理や患者さんの満足が得られる材料の研究だけでなく、正常な色判断の補助となる器械等の開発も大変重要な研究課題ではないか考えております。そして、日本歯科色彩学会認定の測色器と方法が一般的に知れ渡ることで、本学会の存在感を示すことが出来ればと期待しております。

以上、とりとめのない単なる私見を述べさせて頂きました。本学会会員の皆様のご協力が無くては、本学会の将来はありません。どうぞ、次期片山　直会長を会員全員で支えて、是非とも本学会が発展し、学問的な認知度がさらに向上するようにご尽力をお願いいたします。

末筆となりましたが、私に対するこれまでの皆様のご援助に感謝申し上げます。

事務局交代のお知らせ

新会長就任に伴い、日本色彩学会の事務局が下記に変わりました。

日本歯科色彩学会事務局
〒350-0283　埼玉県坂戸市けやき台1-1
明海大学歯学部機能保存回復学講座保存修復学分野
担当　石原祥世　　市村　葉　　小澤有美
ｅメール　sachiyoi@dent.meikai.ac.jp

不慣れなため、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、歯科色彩学の発展のために微力ながら頑張っていく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成24年度　日本歯科色彩学会見学会
e−ラーニングが拓く新しい世界が開催される

さる平成25年2月24日に平成24年度の見学会が開催されました。今回は秋葉原にある「デジタル・ナレッジ」というe−ラーニング専門の会社を訪問させていただき、実習を交えた半日のコースを受講しました。当日は約30名の会員が参加し、座席に用意されたタブレット端末、あるいは持参したiPadやスマートフォン、PCなどの自らの情報端末を操作しながら双方向の研修を体験しました。授業中あまり反応がない学生さんでも、意見を出せるようになるとの説明通り、講師の先生の質問に対して受講者の活発な意見が授業用スクリーンの傍らに設置された大型モニターにアップされ、楽しい参加型の授業を経験しました。「セレックの使用法ができるまで」という動画コンテンツができるまでの解説コーナーでは、セレックを操作しているビデオにわかりやすい解説が合成されていく様をスタジオ見学しました。天気予報の解説みたいという声が出ていましたが、まさにそんな感じの動画が、費用や時間をかけずに簡単にできるとのことでした。

また今回は「iPhoneを用いた活用例」と題して、明倫短期大学の小暮ミカ先生がiPod・iPhoneを用いた歯冠彫刻の客観的評価法について、「iPadを用いた活用例」と題して、(株)サヤカの山鹿洋一先生が埼玉技工専門学校の教材をデジタル化し、学生全員に配布したiPadで自習するシステムについて、「昭和大学歯学部での模擬患者による教育」と題して、菅沼岳史先生が模擬患者と対話型で診査・診断し治療法を選択していくシステムについて紹介されました。詳細は参加者のレポートに譲りますが、時代の流れを感じさせる大変興味深い内容でした。

最後になりましたが、施設見学のみならず、さまざまな活用事例をご紹介いただいた中嶋竜一氏はじめ株式会社デジタル・ナレッジの皆様、セレックの動画撮影や企画・運営に多大なご協力をいただいた中山友克先生、山鹿洋一先生、いつもながらの素敵なポスター製作をしていただいた小暮ミカ先生、発送受付を引き受けていただいた学会事務局の皆様に厚く御礼申し上げます。

（見学会委員会　中澤　章）

第21回日本歯科色彩学会総会・学術大会のご案内

学　会　長：片山　直（明海大学歯学部　教授）
大　会　長：片山　直（明海大学歯学部　教授）
副 大 会 長：天笠光雄（東京医科歯科大学名誉教授）
実行委員長：石原祥世（明海大学歯学部　講師）

第21回日本歯科色彩学会を以下に示すように開催いたします。
多くの会員の皆様のご参加ならびにご発表をお待ち申し上げます。

■開催概要

会期：2013年７月27日（土）～28日（日）
会場：東京医科歯科大学歯科棟南４階　特別講堂
＊日歯生涯研修対象学会（生涯研修ICカードをご持参下さい）

■テーマ：「歯科色彩の再現」

色の再現性について、記録方法の再考、対象物（セラミックス）の光学特性、そして環境光としてのLEDの基礎を習得することを目的としております。さらに、これまでの色の再現手法を学び、コンポジットレジン修復では修復法のデモをしていただき色の再現テクニックを学んで頂きたい。

■参加登録

事前登録（６月30日（日）まで）
下記のいずれかにより受付けます。
①　別紙「第21回大会事前参加登録申込書」に必要事項を記入し**FAX（049-279-2741）**して下さい。
②　学会ホームページ（www.jacd-dc.jp）内のテンプレートをダウンロードし、必要事項を記入してメール送信して下さい。
送信先：**jacd2013meeting@gmail.com**

■演題・抄録のご案内

申込方法
学会ホームページ（www.jacd-dc.jp）内の演題申込書と抄録をダウンロードし、必要事項を記入の上、大会事務局に送信して下さい。
送信先：**jacd2013meeting@gmail.com**
・**演題締切り　平成25年６月１日（土）**
・**抄録締切り　平成25年６月15日（土）**
・学会賞、奨励賞の審査希望者は演題申込書の応募欄に記載して下さい。
・演題の採否についてはご一任下さい。

■開催日程

7月27日（土）	13：30～	受付開始
	14：00～15：00	理事・評議員会
	15：10～16：30	講習会 ＜必須コース＞ 「口腔内撮影と色の再現」 中澤歯科クリニック　中澤　章 先生
	16：40～18：00	講習会 ＜応用コース＞ 「歯科用セラミックスの光学的特性(仮題)」 長崎大学 准教授　白石　孝信 先生
	18：30～	懇親会
7月28日（日）	8：30～	受付開始
	9：00～ 9：10	開会
	9：10～10：00	総会、表彰
	10：00～10：50	ポスター発表
	11：00～12：00	特別講演 「LEDの応用」 女子美術大学 教授　渕田　隆義 先生
	12：20～13：20	昼食
	13：30～15：30	シンポジウム 「歯冠色の再現性(仮題)」 明海大学 教授　藤澤　政紀 先生 「コンポジットレジン修復の色の再現(仮題)」 日本大学 教授　宮崎　真至 先生
	16：00～16：10	閉会

編集委員会報告

「歯科の色彩」発刊に向けて、3月16日と4月20日に昭和大学歯学部において編集委員会を開催しました。特に前出日では、2月の見学会でもご講演いただきました菅沼岳史先生がご趣味(？)というかtt-9という規格のミニ鉄道模型を拝見することができました(写真左)。自作の0.25mmのパーツなど手を触れるのが憚られるようなマクロの世界の一端に触れることができました。ここにもマエストロ級がいたことを再発見しました。

今回は諸般の事情にて発刊が遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

(齊藤　誠)

編集委員会にて(4月20日)

編集後記

「歯科の色彩」ニュースレター55号をお届します。

“三寒四温”で春がやってくるのは世の常ですが、その気まぐれのせいで今春は桜の開花が早まり、上野公園では　通常開花時期がずれる何種類もの桜が一気に開花し、一度に多種多色の桜を愛でるという“常ならむ”ことが起こりました。その影響は今も続き、関東では藤や牡丹は既にしぼみ、クレマチスなど初夏の花が盛りとなっています。この後は躑躅や菖蒲、アイリスなど…と続き、写真を愛する方々は、デジカメ等で如何に感動した色を正確に記録しようか、悪戦苦闘することがあろうかと思います。花の撮影にはライン光や半逆光を利用したり、広い画角は上から撮影、背景に暗い色をもっていってメインの被写体を浮かび上がらせる、メインを７：他を３とする黄金比を用いるなど、数々のテクニックがあります。オートで何でも撮れてしまう最近のデジカメの進化には恐恐とするばかりでありますが、それでも良い画像が撮れないのが頭の痛いところであります。

さて、片山　直新会長のもと、新体制がスタートしました。学会事務局も明海大学に移ります。我々も一丸となって邁進してまいりたいと思います。

今号は　学会誌「歯科の色彩」と共の配送となりました。

池見宅司前会長が心血注いでまとめられた、日本歯科色彩学会のあゆみ、実績がCD化され、添付されております。研究の指針、一助として、また記録として活用していただきたいと思います。池見先生、ならびに日本大学松戸歯学部保存学修復学講座の学会事務局の先生方、お疲れ様でございました。

(文責:齊藤　誠)